

テーマ「戦争の問題から新聞を考える」

太平洋戦争が始まり、言論統制が強くなっていった時代取材します。

取材場所 3階「新聞のあゆみ：戦時統制期」

1

「戦時統制期」には、新聞の統廃合が行われたことが紹介されています。

1937年には1208社の日刊新聞発行社は、戦争末期には何社になったでしょうか。



社

2

「戦時統制期」のコーナーには、戦争をあおるようなポスターや、事実とは異なり日本が有利に戦争を進めているように伝える新聞紙面を展示しています。

このような歴史を通じて、わたしたちは何が大切だと学べるでしょうか。「戦争と新聞を学ぶ意味」のパネルを手がかりに、考えてみましょう。



日付： 年 月 日

氏名：

1-②

20230829

チャレンジ

自由見学のときや帰ってから挑戦しましょう。

1942年のミッドウェー海戦で日本は、航空母艦（空母）4隻を失うなど大きく負けました。しかし天皇直属で軍の最高機関である「大本営」はそのことを発表せずそれを発表し、言論統制を受けていた新聞もそのまま記事にして伝えました。展示されている紙面の見出しには「帝国海軍東太平洋全域に大作戦」「東太平洋の敵根拠地を強襲」（「根拠」は今の漢字で「根拠」）と書かれています。このような新聞を見た人は、戦争の状況についてどんな感想を持ったと思いますか。

